## 沢庵風呂

あるところにねえ、少し頭の弱い男の人があったけれども、いい具合にお嫁さんが来ました。うちの人たちは大喜びで、

「まぁ、よくきてくれたなぁ。じゃ、明日嫁さんのとこに行こう」と、みんなで相談して、嫁さんと二人で出かけて行ったんだって。昔は「日取り」というのがあって、姑さんの家に挨拶に行かなければいけなくってね。そしたら、嫁さんのうちでは初めてのお婿さんだから、もう歓待して、「さぁさ、まずまず遠いところを来たから、お風呂に一つどうぞ、入ってください」、「じゃぁ、お風呂もらいます」って入ったら、なんだって、いつもの風呂より熱くて熱くて、「どうしような。そうだそうだ。朝にご飯食べるとき、お湯が熱いと必ず沢庵を入れて冷ましたんだから、よし分かった。おーい、すみませんが、沢庵を一本ください」、「へへっ、沢庵ですか」、「へえ、ちょっと」、「あぁそうですか」、なんか知らないけども、お婿さんが沢庵と言ってたから、沢庵持ってきて、「じゃぁ、これでいいですか」って、「はぁ、いいです、いいです」。今度、沢庵をお風呂に入れて、「はぁやくぬるくなれ、早くぬるくなれ」。ほんとにどうしたお婿さんだやら、その後に風呂に入る人は大変だったろうと思います。そういう昔話があります。　豊嶋栄子（檜山　75歳）

〈解説〉

同じような話が『能代の昔ばなし』にもある。榊地区に伝わっている話で、知恵遅れの息子が嫁の実家に行くことになって、母は息子が失敗しないかと、あれこれ注意してやったが、「ご飯のあとでお湯を飲むとき熱かったらたくあんを入れればいいよ」と教えたところ、お風呂に入るときに熱かったので「たくあん、たくあん」と叫んでじまっ

たという話である。今は、ご飯のあとにお湯を飲む、そのお湯にたくあんを入れてお湯をさましながら、茶碗を洗うという風習もなくなってしまった。